

科目名称(Course Title)				担当教員(Instructor)	
経営管理論				篠原 正人	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
前学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修・聴講
授業の概要(Course Description)					
<p>1回生担当の「経営学入門」を基礎に、それをさらに進めて、企業あるいは行政組織における経営管理（マネジメント）の理論を学ぶ。</p> <p>授業の土台はP. ドラッカーの「マネジメント」に置き、他の理論家の説にも触れながら、実際になされている業務に沿って授業を進める。</p> <p>授業の重点は、学説よりむしろ企業・行政組織の経営に合致した、実践的なものとする。</p> <p>従って授業においては、教科書輪読に加え、実際に社会で起こっている経営的事象を題材にして、実践的な知識を身に付けることとする。</p> <p>授業は原則として教科書に沿って進め、履修者が自らその内容を予習し、授業中に自らそれを解説するという能動的な態勢を取る。さらに、履修者が自分で調べてきたテーマを、発表する機会を多く設ける。</p>					
授業の到達目標(Course Objectives)					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 企業や行政組織がどのような考え方に基いて運営されているのかを理解している。 2) 組織の中で人が効率よく働くために、どのような仕組みが必要かを理解している。 3) 組織の成長を促すために、どのような革新が必要かを理解している。 4) 西洋的経営と日本的経営の比較ができる。 5) 人前で自分が考察した結果を適切に発表できる。 					
授業計画(Course Schedule)					
第 1 回	経営管理とは何か				
第 2 回	経営学の理論の変遷：主な理論の復習				
第 3 回	事業の目的とは				
第 4 回	行政組織とNPOの目的とは				
第 5 回	人のマネジメント				
第 6 回	社会的責任				
第 7 回	経営者・マネジャーの役割				
第 8 回	意思決定とコミュニケーション				
第 9 回	マネジメント組織				
第 10 回	会計・税務と財務				
第 11 回	合併と統合				
第 12 回	西洋的経営と日本的経営				
第 13 回	経営問題ケーススタディー（1）				
第 14 回	経営問題ケーススタディー（2）				
第 15 回	授業のまとめ				
授業時間外学習(Supplementary Activities)					
<p>経営の実際を学ぶ機会を見つけ、理論と照らし合わせてみる。</p> <p>特に、実践的教育を通じて地域連携の中で企業や官庁の経営の実態を学ぶ。</p> <p>新聞や雑誌を通じて、社会で起きている経営問題に関心を持つ。</p> <p>人前で発表できるよう練習をする。</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法 (割合)	評価基準
授業への貢献度 (50%) 課題 (50%) を基本とする。 10回以上出席を単位付与の条件とする。	秀：学んだ専門用語を駆使して、論理的・客観的な説明ができ、かつ、問題点の解決方法を指摘できている 優：キーワードを用いながら論理的・客観的な説明ができ、かつ、問題点を理解している 良：おおよその説明はできており、かつ、問題点を理解している 可：経営管理の仕組みや問題点の説明において、最低限の水準を満たしている 不可：経営管理の仕組みや問題点が説明できていない
テキスト (Textbook)	【書名】 「マネジメント」エッセンシャル版 P. ドラッカー 【著者】 【出版社】 ダイヤモンド社 【出版年】 2001年
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	日本経済新聞 エコノミスト 週刊ダイヤモンド その他、講義の中で適宜参考文献を紹介する
備考 (Other Information)	大学教育は「教えてもらう」ものではなく、学生が自分で学習するのを教員が「アシスト」するのだという原則を貫く。 課題レポートを提出しなかった者は単位付与付加とする。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	shinohara-masato@fukuchiyama.ac.jp